

雪崩災害から身を守るには



積雪のピークを迎える1～3月にかけて、気温の上昇等により雪崩の危険性も高まります。
 雪崩の前兆現象を見つけた場合、**斜面等には決して近づかないでください。**
 前兆現象を発見した方は、直ちにお住まいの**市町村や最寄りの県総合支庁までご連絡ください。**

雪崩ってどんな現象？

雪崩とは、「いったん斜面上に積もった雪が、重力の作用により、肉眼で識別し得るほどの速さで滑り落ちる現象」です。



表層雪崩はすべり面が積雪内部にあるため滑りやすく、時速100～200km(新幹線並み)の速さで滑り落ちます。
 このため、より遠くまで流下し、雪崩の被害が広範囲に及ぶ場合があります。
 前兆現象の発見が難しく、予知が難しいという特徴があります。

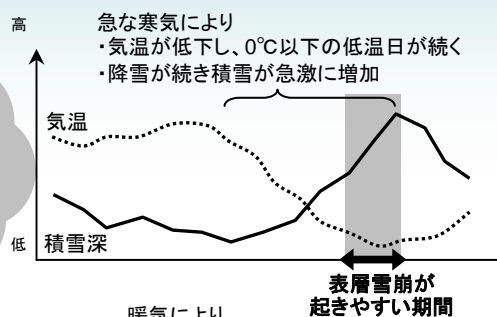


全層雪崩はすべり面が地面であり、時速40～80kmの速さで滑り落ちます。
 斜面の勾配が35～45度で樹木がなく、地肌が露出している場所で発生しやすいと言われています。
 笹や草に覆われた斜面はさらに滑りやすく、全層雪崩の危険性が高まります。

どんな時に起こりやすいの？

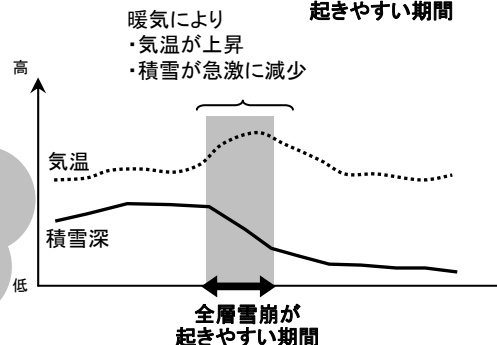
○表層雪崩

気温が低く、既に積もった雪の上に、新たに多量の雪が積もったとき



●全層雪崩

降雪や降雨の後、天気が良く気温が上昇したとき

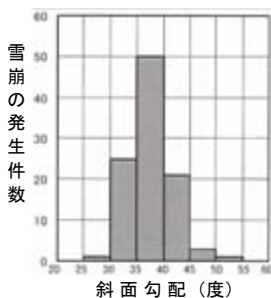


どういう場所で起こりやすいの？

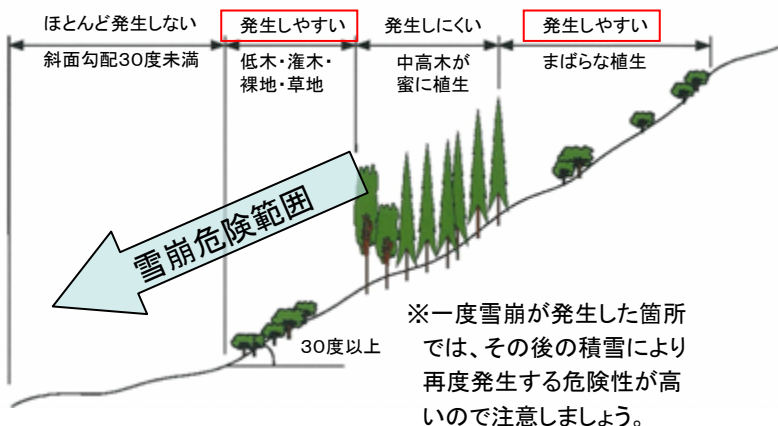
雪崩が発生しやすい斜面勾配

斜面勾配30度以上：
 雪崩が発生しやすくなります。

斜面勾配35～45度：
 雪崩発生事例が多く最も危険です。

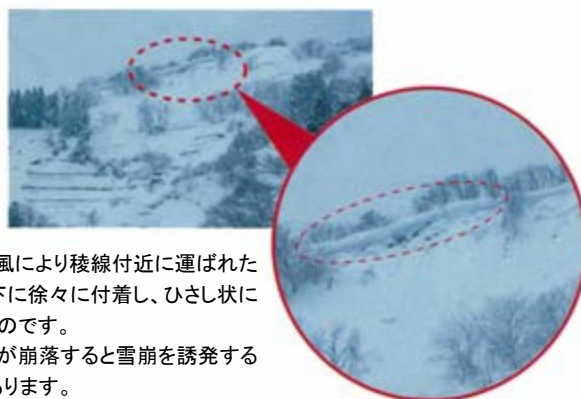


雪崩が発生しやすい斜面の植生の状態



前兆現象を見逃さない！

・雪庇 (せっぴ)



・クラック (雪割れ)

